



# ORD NEWS

2009  
3  
NO.102

大阪府研究開発型企業振興協議会

## CONTENTS

大阪府研究開発型企業振興協議会 (ORD) の皆様へ……………1
ORD事務局の移転……………1
基調講演「真のものづくり大国を目指して、日本の向かう道」…2
会社紹介 旭テック株式会社……………3
製品開発委員会 9月例会「日帰り研修会」……………4
基礎物理学の最先端「スーパーカミオカンデ」を見学! ……4
ベンチャー21委員会 10月見学会……………4

編集：企画広報部会 事務局：〒541-0045 大阪市中央区道修町4-7-10 (奥野製薬工業(株)内)  
TEL 06-6203-0721 (代表) <http://www.ord.gr.jp>

## 大阪府研究開発型企業振興協議会 (ORD) の皆様へ

改めて大阪府研究開発型企業振興協議会 (ORD) 会員の皆様にご挨拶申し上げます。

昨今の厳しい経済情勢の中、昨年度の大阪府行政の抜本的な改革により、当ORDの会もそのあおりを受け、大きく改革変貌を余儀なくされました。会員の皆様におかれましては、発足当初からのご尽力のお陰で、20数年の間つつがなく活動を行ってきまことに深く感謝をいたしております。本当に有難うございました。また、大阪府をはじめ、関係諸機関の大きな支えもありましたことに心から感謝する次第です。

しかしながら、これからは、本当の意味で発足当初の研究開発型企業の抱える諸問題を論じ合えて解決へと導く大阪を中心とした関西圏の健全な発展を図る活動理念を再度認識して心新たに再出発したいと考えております。また、誰の手も借りない一致団結したORD会員自身で発展できる事業活動を始めなければならないと痛感しております。そして時代に即応して通信機器を最大限に活用し

てより新しい必要な情報を皆様に提供できるように仕組みも構築していく予定です。

今後は、ORDとして、会員企業の相互協力はもとより、関連ある大学や研究機関やこれまでに無い異業種の企業との更なる連携を図り、人ならびに技術の交流を深め、関西にORDの存在が目に見えてくるのと同時に、会員の皆様にお役にたてる会を目指して一層の改革をしていきたいと心新たにしております。

しかしながら、この会を支えていただくのは他でもなくORD会員の皆様の一致団結した熱い熱意と希望そのものであると考えており、個々の意見を大切にしながら様々な幅広い活動事業を開始し展開を図ってまいる所存です。

より一層の会員皆様の御理解とご協力、そして更なるご支援を賜りたく心からお願いを申し上げます。

代表幹事 奥野 和義 (奥野製薬工業(株))

## ORD事務局の移転

### 事務局の移転

「マイドームおおさか」の大阪産業振興機構内にあったORD事務局は、2008年7月31日をもって閉鎖され、8月1日より奥野ORD代表幹事が社長を務める奥野製薬工業(株)の本社に移転しました。原因は橋下大阪府新知事が、悪化著しい府財政を立直すため財政再建を厳しく進めていることにあります。ORD事務局員はORD設立以来、大阪府もしくは外郭団体の職員が務めORDの裏方を支えて来ました。22年に及ぶ歴史の中で、事務局を担う府の部局は色々変わってきましたが、一貫して大阪府に連なる公に支えられてきました。

### 事務局の変遷

大阪府や金融機関の支援のもと大阪府下の研究開発型企業が集まり、企業を取り巻く厳しい環境や共通の技術テーマに取組む場として、1986(昭和61)年2月19日に「大阪府研究開発型企業振興協議会(ORD)」が設立されました。設立時、事務局は大阪府商工部ソフト産業振興課のスタッフが担当しました。1990年後半に(財)大阪府研究開発企業振興財団が府の外郭団体として設立され、内本町住友生命大西ビルに事業所を構えましたが、ORD

事務局はその中に設置されました。その後振興財団は(財)大阪産業振興機構に吸収され、事業所はマイドームおおさかに移転しましたが、振興機構の経営支援部の職員がORD事務局の職員を兼任する形は、2008年7月31日まで続きました。

### 公から民への転換と今後の展望

府の外郭団体が事務局から撤退することになった時、代表幹事の奥野社長は代表としての責任からORD事務局を自社で引受けることになり、当面は事なきを得ました。11月18日(火)に今年度二回目の幹事会があり、初めて奥野製薬工業で開催されました。これまで事務局所在地はしばしば変わりましたが、公から民への転換は初めてです。ORDには大阪府の情報と支援を期待して参加している会員も多くいると思います。公から民への転換がORDにどのように影響するか。ピンチでもありチャンスでもあるでしょう。公から民への転換がピンチであるなら、それをチャンスに変える会員各位の真摯な提言と行動が求められます。チャンスであるなら、さらに促進させたいものです。

企画広報部会長・菊池 清(記) / セン特殊光源(株)

— 基調講演 —  
(要約)

テーマ

# 「真のものづくり大国を目指して、日本の向かう道」

愛知淑徳大学ビジネス学部 教授 (元(株)東京銀行) 真田 幸光  
平成20年度総会後の基調講演 平成20年8月4日(月)りそな銀行本店地下講堂



最近の経済情勢の懸案であるサブプライムローン問題のポイントは、融資の小口化・証券化・流動化により不良債権が優良債権を道連れにして、格付け機関の信用によって世界へ拡散したことによるもので、米国内にまだ8兆ドルのローン債権が残っているとみられている。影響が少ないといわれる日本でも、厳しい融資や投資のスタンスが、日本経済にブレーキを掛けてきている。

洞爺湖サミットで議論された経済問題は、基軸通貨ドル中心の経済体制が、はたして本当に維持されるのか、それとも、必要な資源が実需原則に基づいてコントロールされるべきなのか? これはほとんど、日本では報道されていない。

世界の市場で資金余剰を吸収する、あるいは運用する場が少ないのが不適切な投機を生み、原油価格や原材料マーケットの高騰の一因となっている。

米・欧・中・日の四極経済の動向はどうか?

アメリカ経済については、マーケットの平準化を図る基軸通貨米ドルのスタンスを、大統領選挙と合わせて注視すべきである。

ヨーロッパは、サブプライムローンの不良債権問題が大きく、強烈的なユーロ高と物価高による価格競争力が問題である。

日本は、資金の流動性の問題があり、原材料高、エネルギー高、食糧価格高という状況がある。

圧倒的に外貨資金を保有し、格付けの下がらない中国は、力強い発展を遂げているが、

四川大地震・チベット問題・三農問題を含め、北京オリンピック後からは経済の安定成長を進めてゆく。

世界的なインフレ下での景気鈍化が懸念されるこの世界経済の状況を的確に捉えるには、鳥瞰図的視点『鳥になりなさい』、複眼的視点『昆虫になりなさい』、そして、世の中の流れ、潮目を読む必要性『魚になりなさい』が重要である。

日本が世界一のものづくり大国になるには、少子高齢化を逆手に取り、所得と消費を向上させ、工業・農業・畜産業などで生産工程のプロセスマネジメントを充実させてゆかねばならない。それにはプロセスマネジメントの、川上と川下を強化する必要があり、原材料とエネルギー資源の利権の力関係で、ものづくり奴隷大国化することを避けねばならない。

重要なのは『いいものを高く売り、そのお金で、ものづくり系の人材に対して高給を払いつつ、育成する』ことである。

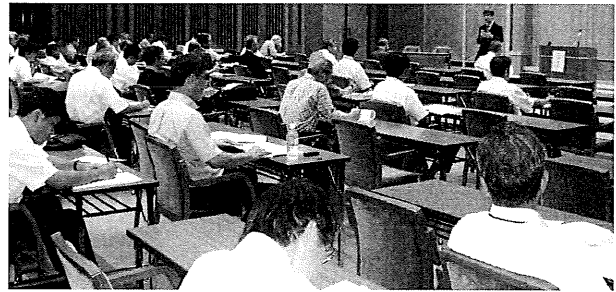
従来のコスト積み上げ、マージン加算、価格帯の中でのコスト調整による製品価格の決定ではなく、世界の標準である、高付加価値製品に対する自立的な価格決定を行わねばならない。またそのような顧客を開拓するマーケティングのための理科系/文化系の人材を育成し、一気通貫

のものづくり大国をめざすべきである。

また、世界での日本の生き残り方のひとつに、ものづくりの『メンテナンスの強さ』が挙げられる。例えば、外国産の核の再処理工場設備を、長く、安定的に運用するノウハウを持った日本のマネジメントは他国が真似できない部分である。

『少量多品種、ハイマージンでメンテナンスが強い、ものづくり国家』を、他国と連携をしながら目指していく。そうして、ものづくりの本当の根幹のスタンダードを握っていくような国家にしていくべきであり、皆様方の技術はその源にあると考えるべきである。

日本のさらなる発展は、国や自治体や産官学企業も力を合わせ、川上と川下のところでものものづくり国家を支え、その流れへ若い人たちが向かうような仕組みを作り、雰囲気醸成するということが必要と考える。



## 質疑応答

質問 日本人はマニュアル関係に強いのか?

答え メンテナンスのためのマニュアルづくりは、日本人には向いている。例えば、同じ会社のマニュアルでも、アメリカより日本のほうが優れている場合がある。ただ、鳥瞰図的視点で考えると、日本が得意とする精緻な部分を全体像の中でのマニュアルを組み合わせるところに弱さを含んでいる。

質問 世界のお金が、原油、資源、食物に回り高騰しているが、余剰資金は次に『水』に回るといえるのは?

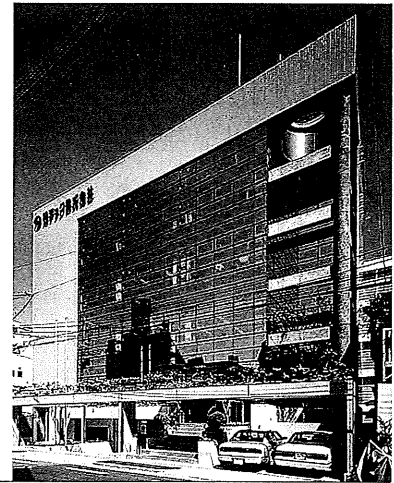
答え 世界的な水不足で、投資の対象になる可能性が高い。また、環境問題から水の処理や、資源の有効活用などの部分で、欧米諸国の技術をはじめ込みながら部分的な利益をあげる方策がある。アフリカなどへの水の輸出もある。日本企業も戦略が必要である。

同日にテクノパワー2008 in Osakaを盛大に開催いたしました。ポスターセッション出展者25(ORD会員企業5、会員外企業16、公設機関・大学4)を数え、同時にショートトーク7件が行われました。

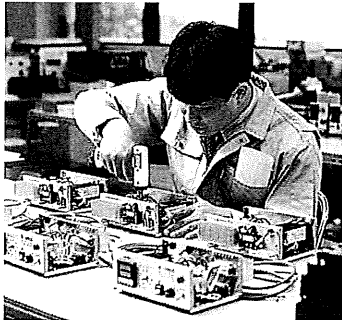
## 会社紹介

### 旭テック株式会社

代表取締役 伊場田 晶



弊社は昭和42年に創業し、おかげさまで今年で第41期を迎えることができました。また、私も今年4月に代表取締役に就任させていただき、今年9月で41歳になりました。創業者は私の父である伊場田輝典でございます。今回、ORDニュースに企業紹介を記載していただくにあたり、たくさんの紙面を割振っていただきましたので、創業社長の昔話から始めたいと思います。



私の父であり創業者であり前社長の伊場田輝典は昭和11年に広島県の田舎に生まれ、高校卒業時に現在の本社所在地である大阪市旭区に在住の親戚を頼って上京してきました。その後、働きながら電気／電子系の大学の夜間部を卒業し、電気部品の専門商社に就職いたしました。5年ほど働いた後、32歳で同じ電気部品の専門商社であるマツヤ産業株式会社（平成5年に旭テック株式会社に名称変更）を創業いたしました。当時の話を聞きますと、最初のうちはほとんど仕事がなく、生活費の持ち出しであったと聞いております。

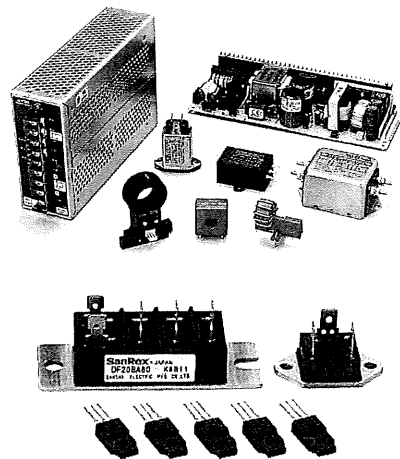
会社に順風が吹き始めたのは、取扱商品であるマグネットを利用した近接スイッチが、昭和40年代半ば以降に普及し始めた自動ドアに不可欠な部品であったからと聞いております。その後、各種メカトロセンサー類から電気／電子式のセンサーへ品揃えを増やし、現在では設備向けのパワー半導体を中心とした電気部品の専門商社として商売をさせていただいております。

ORDに入会させていただきましたきっかけは、LTS（ロートルクススイッチ）というメカ式の接点スイッチを平成5年に自社開発した際に大阪府から助成金を頂いたことに始まるようです。私は平成11年に入社したのですが、皮肉なことに最初の仕事がこのLTSの生産を続けるか否かの判断をしてほしいというものでした。1年間ほど製造コストの見直しや市場調査した後、一部強い需要はあったものの、結局、メカ式では電子式のものにコスト及び性能で太刀打ちできないと判断し、撤退との判断を下しました。

現在では、仕入製品である設備向けのパワー半導体を使用したユニットのOEMを中心にものづくりを展開しております。近年、要求仕様のみを客先様より頂き、開発、製造、検査を弊社に丸投げしていただくというスタイルが徐々に増えてきており、この辺りが開発／製造部門を持った専門商社としての強みを生かした一つの解答ではないかと期待しているところです。とは言うものの、現在、開発／製造部門の関与している商品の売上は全体の1割程度ですので、3割程度にできたらと思っております。

最後に弊社の企業概要を簡単に説明させていただきます。

拠点は、大阪本社で東京と名古屋の3事業所で、従業員数はパートを含めて45名です。取り扱い製品は、①パワー半導体（ダイオード、サイリスタ、トライアック、MOSFET、IGBT）及びその周辺製品（ヒートシンク、ヒューズ、端子台）、②スイッチング電源（AC／DC、DC／DCコンバータ）及びノイズフィルタ、③フェライトコア及びマグネット、④各種センサー（フロートS／W、磁気近接S／W、電流センサー）、⑤ファンモーター（AC及びDC）、⑥開発／製造部門のOEM品、となっております。



このような零細企業ではございますが、ORDを通じまして異業種のトップ方々と様々な話をさせていただけるのは、私にとりまして望外の喜びでございます。今後ともよろしくお願いたします。

## 製品開発委員会 9月例会「日帰り研修会」

例年9月には、製品開発委員会は会員以外の工場見学会を催します。2008年は藤川委員長の得意先の大和鋼球(株)杉原社長のご紹介で、9月16日に日本ピローブロック(株)本社工場(堺市)を訪問しました。同社は昭和25年に設立、日本で初めてピローブロックの生産に着手した企業です。ピローブロックとはベアリング軸受けの一種で、転がり軸受ユニットとも称されます。製造機械は自主設計と内製に努めているため、強い競争力を得ているとのこと。日本ピロー・小林社長が披露する高い利益率に、見学者全員は驚きと羨望の声を上げた。写真は会議室における記念写真で、右から4人目が小林社長。5人目が見学会幹旋の労をとって頂いた杉原社長です。帰路には仁徳天皇陵を詣で、堺市内のしゃ



れた菓子屋直営店で当店自慢のカステラを味わい、最後は心齋橋「木曾路」で懇親会を打上げました。残暑厳しい9月でしたが、全員で充実した工場見学会を楽しみました。

菊池 清(記)／セン特殊光源(株)

## 基礎物理学の最先端「スーパーカミオカンデ」を見学!

### ～技術交流委員会・ベンチャー21委員会合同一泊研修会～

10月24日～25日、技術交流委員会とベンチャー21委員会の合同一泊研修会が実施されました。今回は素粒子のニュートリノ研究の最先端に行く東京大学宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設を見学しました。この施設は、「スーパーカミオカンデ」の名称で知られており、ノーベル賞物理学賞を受賞した小柴昌俊氏が研究を行った「カミオカンデ」に隣接しています。飛騨市神岡町の池ノ山の地下1,000mに設置されています。研究施設は東京大学の管轄ですが、スーパーカミオカンデに行くまでの坑道は、神岡鉱山の管轄になっているようです。坑道入り口で参加者全員ヘルメットに身を固め、専用バスで進みました。東京大学の助手の方の懇切丁寧な説明があり、ニュートリノことが少しだけ理解できたように思いました。スーパーカミオカンデは、5万トンの純水を満たした円柱状の水槽の壁面にニュートリノが水の分子に衝突して発生する「チェレンコフ光」を観測する11,129本の光電子増倍管を設けた構造をしています。その規模に参加者全員大変驚きました。この研究施設は年中無休、24時間体制で観測を行っており研究者の苦労が実感できました。最も感



じたことは、①基礎分野の研究には莫大な費用と時間が必要なこと。②研究者は人並み外れた忍耐力と現象を見逃さない鋭い目が必要であること。の2点でした。

見学後、ひるがの高原で宿泊しました。懇親会では楽しい一時を過ごすことができました。

翌日、高山へ立ち寄り市内観光を行いました。高山陣屋などを見学し、お土産も沢山買うことができました。今回の研修会は日頃目にすることができない貴重な施設を見学でき大変有意義なものでした。

森下喜郎(記)／新和商事(株)

## ベンチャー21委員会 10月見学会

来たる10月10日(金)今年度のベンチャー21委員会の活動として、大阪府下の研究施設及び研究成果の見学会の第2弾として、大阪府立大学の見学会を他委員会メンバーを含み、総勢11名にて見学会を行いました。

まず、先端科学イノベーションセンター長の溝畑教授の講義後、知的財産マネジメントオフィスコーディネーターの

喜多先生の特許についての講義を受け、その後設備見学としてレベル100のクリーンルーム放射線施設の線源棟の見学を行い、府立大学所有の施設・研究成果を再確認させられた見学会となりました。

松浦 勲(記)／ラミネート工業(株)

### 事務局から

ORD事務局が奥野製薬工業(株)(大阪市中央区道修町4-7-10)に移転しました。事務局を担当していただくのが松村宗順氏です。

移転理由につきましては前のページに詳しく記載しておりますので目を通して下さい。なお、今後の運営方針等につきましては、企画広報部解とテクノサポート部会で協議を重ねており、近々まとめる予定となっております。次回幹事会(2月5日)に計り、決定次第、会員各位にご報告できると思います。

今後ますます会員各位の結束を強くし、より強力なORDを目指そうではありませんか。事務局も精一杯努力していく所存ですのでよろしくご支援を賜りますようお願い申し上げます。

事務局長 堀畑 享嗣

### 新事務局

場 所：大阪市中央区道修町4-7-10  
(奥野製薬工業(株)内)

事務局長：堀畑 享嗣

事務局長：松村 宗順、佐藤 晴央

電 話：06-6203-0721

090-5251-3874

ファックス：06-6203-4332

メールアドレス：s-matsumura01@okuno.co.jp

発行が諸事情により遅延いたしましたことをお詫び申し上げます。4月から、ORDの一部規約の変更等があります。近日中に会員の皆様にはご案内申し上げます。